事後指導の検討

研究協力者　竹内宏一
（浜松医科大学公衆衛生）

研究要旨

毎年春に実施している小児生活習慣病予防健診の結果、要指導児とその保護者に対して夏休みに予防教室を開催している。今回予防教室の内容を再検討するため、受講した児童とその保護者に記入してもらった感想を中心に検討した。

受講するために教室に集合した時には、児童と保護者のいずれも緊張した面持ちであるが、すべてのプログラムが終了したときにはかなりリラックスした状況である。記入された感想もほとんどが参加してよかったと答えていた。

しかし、参加する親子は話しを聞く場面が多く受身的であるので、お互い悩みを話し合うなど、より積極的になれるようプログラムの内容を改善する必要がある。

さらに、養護教諭に本予防教室を実質的に企画運営してもらうようにしているが、毎年春の人事異動などの影響もあって、初期の趣旨が十分理解されているとは言いがたい状況にある。養護教諭がより主体的に取り組むように内容を再検討して行きたい。

A. 研究目的

小児生活習慣病予防健診における事後指導の在り方を再検討する。

B. 研究方法

対象について

従来から取り組んできた静岡県Ｉ市の小学５年生（計 932 人）のうち、肥満度 30%以上の者と総コレステロール値 200mg/dl 以上でかつ AI 指数３以上の者、計 82 名とその保護者である。他に、各小学校（11 校）の養護教諭及び教育委員会の担当者についても予防教室に関して聞き取り調査などを行った。

C. 事後指導の概要

1.　夏休み予防教室

前記の対象者 82 名の親子を 4 組に分けて、夏休みに開催されるいずれかの半日教室に参加する。

午前の部：　9：00～12：00（受付　8：45～　）

午後の部：13：00～16：00（受付 12：45～　）

つまり指導側は、同じ指導を 4 回行うことになる。

半日のプログラムは以下の通りである。

1）受付けをするとともに、体脂肪率を測定する。

2）全体会

　a）主旨説明……（15 分）

　b）講演「小児生活習慣病予防」…（30 分）

3）個別指導

　a）医師、保健婦による指導……（20 分）

　b）栄養士による指導……（20 分）

4）体育教師によるグループ運動指導…（45 分）

5）終了後、参加した児童と保護者に感想を記入してもらう。

（最終回の終了後、指導関係者で反省会を開く）

2.　三学期における面接指導

昨年までは、各小学校（11 校）を巡回していたが、肥満児に対する差別意識などの懸念もあり、今年は夏休みの予防教室を開催した同じ会場で実施した。時間は 15：30～17：00 で 1 組 20～30 分程度親子に面接する。（その後の身長、体重、肥満度、そして食事、運動、生活状況について調査もする。）

D. 結果および考察

1.　夏休み予防教室受講後の感想

受講該当者 82 名のうち実際に受講したのは 72 組の親子であった。児童と保護者別に感想の結果を表に示した。

１）全体会の感想

全体での話しについて、児童は「よくわかった」39%、「だいたいわかった」60%に対して、保護者は「たいへんよくわかった」61%、「よくわかった」32%で、ほぼ理解された結果となっている。しかし、３学期になって個人面接して「肥満をなぜ改善しなければいけないか」と

児童に改めて尋ねると答えられない子がいる。子どもの心にくい込むように納得させ、しかもその重要性を忘れさせないようにする工夫が大切である。

2）生活指導、栄養指導の感想

生活・栄養の説明は「よくわかった」と親子とも答える者が多い。しかし、3学期に面接するとかえって太ってしまった子がいる。こうした指導は、1回のみでなく、学校において何度も展開される必要がある。しかし、学校における肥満指導は、差別やいじめなどの問題があって難しいという学校関係者がおり、それをどのように打開していくかがこれからの課題である。

3）運動指導についての感想

児童は「楽しかった」、保護者は「たいへんよくわかった」と肯定的に答えている者が多い。しかし、3学期に面接してみると、冬期ということもあってテレビゲームなど家の中での遊びが多く、屋外の遊びが少ない子が多い。しかし、学外の水泳教室、サッカー教室、野球教室などへ定期的に通っている者は、肥満度がかなり改善した子が多い。学校5日制などの状況において、学外で肥満児に運動指導をしてくれるボランタリィ組織への働きかけなど養護教諭達が積極的に活動することが望まれる。なお、子ども達の生活様式が、事後指導後にどのように改善されたか肥満度と関連しつつ検討した結果の一部は、すでに報告しているが、さらに事例を追加して検討している。

1）「全体でのお話しは、分かりましたか」

〈児童〉	人数（%）
a よくわかった	27(38.6)
b だいたいわかった	42(60.0)
c わからなかった	1(1.4)
	70(100)

〈保護者〉	
a たいへんよくわかった	43(60.6)
b よくわかった	23(32.4)
c だいたいわかった	5(7.0)
d すこしわかった	0
e 全くわからなかった	0
	71(100)

2）「生活・栄養の説明は、分かりましたか」

〈児童〉	人数（%）
a よくわかった	46(65.7)
b だいたいわかった	24(34.3)
c わからなかった	0
	70(100)

〈保護者〉	
a たいへんよくわかった	55(77.5)
b よくわかった	12(16.9)
c だいたいわかった	3(4.2)
d すこしわかった	1(1.4)
e 全くわからなかった	0
	71(100)

3）「運動指導は、どうでしたか」

〈児童〉（重複回答）	人数（%）
a 楽しかった	53(75.7)
b 疲れた	9(12.9)
c またやりたい	17(24.3)
d 家でもやれそうだ	19(27.1)
e その他	2(2.9)
	70(100)

〈保護者〉	
a たいへんよくわかった	44(62.0)
b よくわかった	23(31.0)
c だいたいわかった	5(7.0)
d すこしわかった	0
e 全くわからなかった	0
	71(100)

E. 結論

参加者の反応はよい傾向といえるが、つぎの2点が問題である。

1）参加する親子が受身的でより積極的になれるように改善する必要がある。

2）養護教諭がより主体的に取り組むように内容を再検討すべきである。

検索用テキスト　OCR（光学的文字認識）ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

研究要旨

毎年春に実施している小児生活習慣病予防健診の結果、要指導児とその保護者に対して夏休みに予防教室を開催している。今回予防教室の内容を再検討するため、受講した児童とその保護者に記入してもらった感想を中心に検討した。

受講するために教室に集合したときは、児童と保護者のいずれも緊張した面持ちであるが、すべてのプログラムが終了したときにはかなりリラックスした状況である。記入された感想もほとんどが参加してよかったとこたえていた。

しかし、参加する親子は話を聞く場面が多く受身的であるので、お互い悩みを話し合うなど、より積極的になれるようプログラムの内容を改善する必要がある。

さらに、養護教諭に本予防教室を実質的に企画運営してもらえるようにしているが、毎年春の人事異動などの影響もあって、初期の趣旨が十分理解されているとは言いがたい状況にある。養護教諭がより主体的に取り組むように内容を再検討していきたい。